

自分のもっている力を駆使してコミュニケーションを図る子どもの育成

1 外国語活動・英語科における子どもに備えさせたい資質・能力

(外国語活動)

- 簡単な語彙や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、質問したり答えたりするコミュニケーション能力

(英語科)

- 知っている語彙や表現を活用して、聞いたり読んだりしたことについて、自分の考えを話したり書いたりするコミュニケーション能力
- 相手意識・目的意識をもって、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度

グローバル化が急速に加速する 21 世紀においては、生涯にわたる様々な場面で、様々な国籍や文化的背景をもつ人々と英語でコミュニケーションを図ることが求められる。その際、相手が英語を母語とする・しないにかかわらず、自分のもっている力を駆使して、自分の考えを伝えたり、相手の考えを理解したり、何とかして合意形成したりすることが求められる。そのため、知っている語彙や表現を活用してコミュニケーションを図ることができる能力を育てたい。また、このようなコミュニケーションを図る場面では、相手に配慮した方法や目的に応じた内容を工夫する必要がある。相手意識や目的意識をもって、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てたい。

2 資質・能力を育むために

次の 3 点を手立てとし、資質・能力を小・中学校で一体的に育成する。

(1) 相手意識や目的意識が明確になる単元構想の工夫

子どもがそれぞれの願いや疑問を抱くことができるような課題や教材との出会いが必要である。そのために、他教科等で学んだことや自分の生活と結びつけるなどして、多様な考えが生まれるような言語活動を単元の目標の活動として設定し、そのゴールに向かって学習を進めていく単元構想を工夫したい。また、何を知るか・何を伝えるかだけでなく、誰について知るか・誰に伝えるかという相手意識があってこそ、コミュニケーションの方法を工夫する必要がある。海外の人や異年齢・異校種の人との交流などの場面設定を工夫したい。

(2) 既習事項を用いて「その場で考えて話す」活動の設定

相手意識をもってコミュニケーションを図る際には、その場で考えて話すなどの即興力が必要となる。この相手には何をどのような方法で伝えればよいのかを考えながら話したり、自分が伝えようとしていることが伝わっているのかを確かめたり、相手が伝えようとしていることが理解できなければ聞き返したりする必要がある。そのため、事実や意見、

感情などを伝え合う際に不適切な間を置かずに、自分の知っている語彙や表現を駆使してやり取りを続ける活動を継続的に取り入れたい。身近な話題についてのスモールトークや、示された絵や写真について描写するピクチャートークなどを帯活動で行うことは、即興力をつけるのに有効であると考えます。

(3) 主体的な学びにつなげる見通しとふりかえりの工夫

(1)のような単元構成において、目標となる姿のイメージをもたせるために、最初に教師がモデルを示すなどして、学習の見通しをもたせたい。また、自分が伝えようとしたことが相手にどのように伝わったかというふりかえりを重視したい。そのために、話したことや書いたことについての生徒の相互評価などを工夫したい。また、「こんな相手にこんな表現をしたから伝わった」「伝えたい内容をどう表現すればよいか知りたい」という視点でのふりかえりを授業の終末や次時の初めに共有し、その内容を次の学習にいかしたい。それにより、「もっと多くのことを伝えたい」という主体的な学びにつなげることができると考える。

以上の3点の手立てをいかした単元の指導の流れを、図1にモデル図として示す。

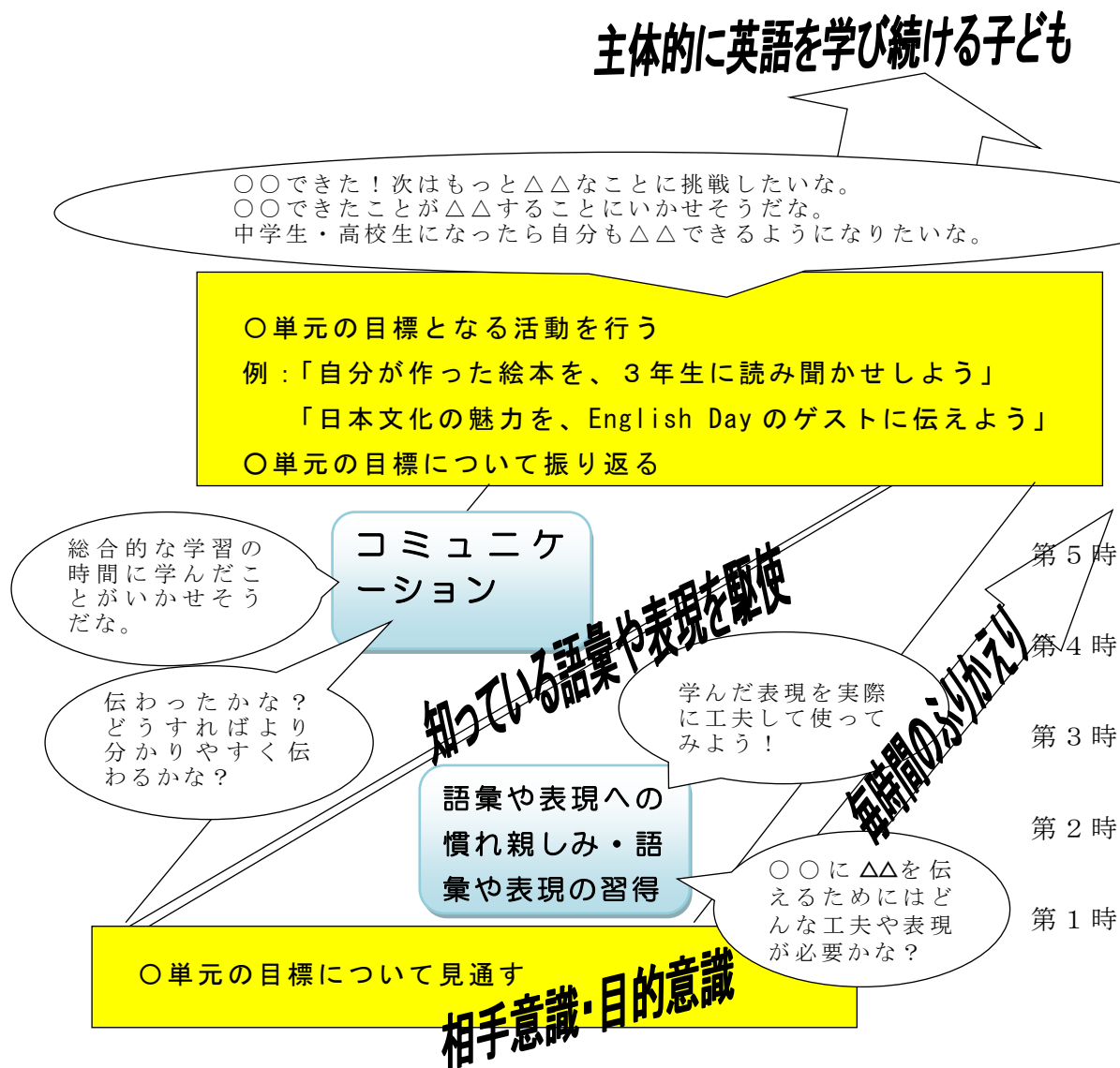


図1：単元の指導の流れのモデル図

(文責 鎌田真由美)